

# かお・人・interview

2020年12月8日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局  
熊本復興事務所 所長

## 大榎 謙氏

ken OENOKI

平成28年熊本地震により、阿蘇地域においては大規模な斜面崩壊や、これに伴う九州の横軸インフラの一斉遮断など、深刻な被害が発生した。熊本復興事務所は、熊本地震からの復旧・復興を加速化し、強力に推進していくため、平成29年に設置された。地震から4年半が経過し、鉄道の運行再開や幹線道路の復旧等、その歩みは着実に進んでいる。これまでの取り組み、今後の課題などについて大榎所長に話を伺う。

### Q 所長就任から2年目を迎えて

当事務所は平成28年(2016年)4月の熊本地震により、深刻な被害を受けた阿蘇地域における大規模崩壊斜面の対策や幹線道路の復旧事業等を担っています。着任当初より地域の方々から、温かい激励のお言葉や早期完成にかかる期待の声をいただいています。



▲大規模斜面崩壊

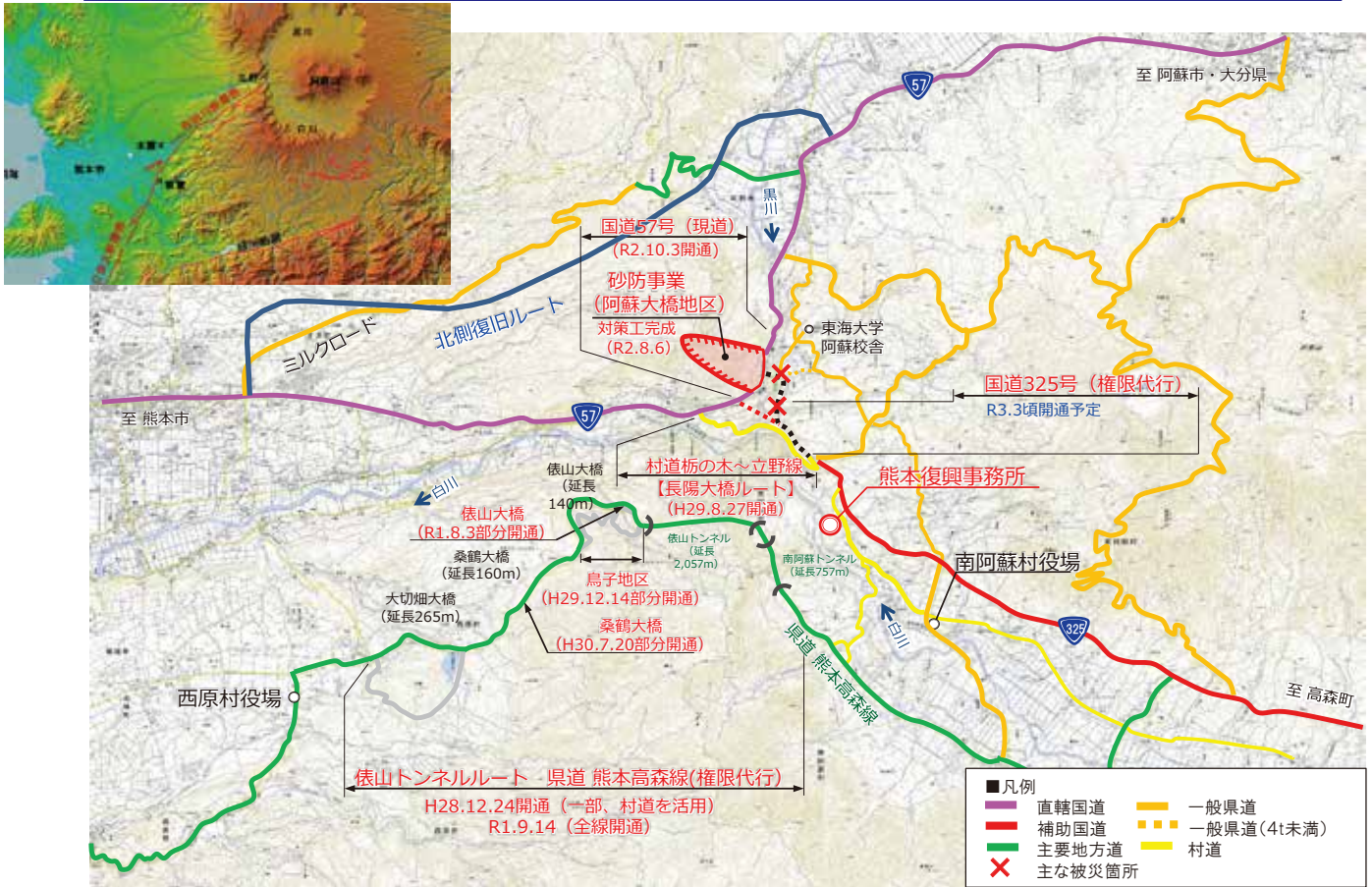
これは発災当初より復旧・復興に尽力頂いた多くの方が積み上げてこられた「信頼」に基づくものであり、事務所職員一同、責任の重さとやりがいを感じながら業務を遂行しているところです。

阿蘇地域の災害復旧事業は大詰めの段階に入っています。引き続き事務所職員及び関係自治体、そして工事・業務関係企業の方々と一体となって各事業の推進に努めて参ります。

### Q 熊本地震から4年、復興復旧の進捗状況

阿蘇山西側にある外輪山の唯一の切れ目付近は、熊本一大間の人流・物流を担っている「国道57号」や「JR豊肥本線」、宮崎県高千穂町方面へつながる「国道325号」等が通過する交通の要衝となっていますが、熊本地震により大規模な斜面崩壊が発生し、これら九州の横軸となる交通インフラが一斉に寸断されました。また、観光道路として南阿蘇への来訪者が利用する「県道熊本高森線(俵山トンネルルート)」も、トンネル(2本)や橋梁(6橋)等の道路構造物が深刻な損傷を受け、通行止めとなり、阿蘇地域の生活や経済活動に大きな影響を与えました。

大規模崩壊斜面の対策については令和元年度末に概成し、梅雨期のモニタリングを実施していましたが、令和2年8月6日の第



▲阿蘇地区の復旧状況



10回阿蘇大橋地区復旧技術検討会（有識者による検討会）で対策効果等が確認され晴れて完成の運びとなりました。その後、8月8日にはJR豊肥本線（肥後大津駅～阿蘇駅）が運行再開され、10月3日には国道57号を無事、開通させることができました。

また県道熊本高森線（俵山トンネルルート）については、迂回路整備等により暫定的な交通機能回復を行った後、段階的に道路施設の本復旧を進め、令和元年9月14日に全線の復旧を完了しています。

### Q 社会状況の変化と取り組み

熊本県では本年2月22日に1例目の新型コロナウイルス感染症患者発症が確認されましたが、事務所職

員が発症または濃厚接触者となることは災害復旧事業に支障を来すことにも繋がりにくいことから、当事務所においては早くから緊張感をもって対応してきました。事務所版の新型コロナウイルス感染症への対応方針や事業継続計画（BCP）を作成・周知し、「もらわない、うつさない」を合い言葉に、事務所全体で感染防止対策等に取り組んでいます。

また同様に、工事受注会社におかれても日頃より意識高く感染防止対策等に努められ、この国家的非常事態のなか予定工程に沿って支障なく工事を進めて頂いていることについて、大変ありがたく思っています。

### Q 熊本県や九州地区との関わりについて

入省後、初めての勤務地は福岡国道事務所、工務課、維持出張所、調査課と道路関係業務を一通り経験させて頂きました。続いて、九州地方整備局道路部では、地域高規格道路の路線・区間指定など九州全体の道路ネットワーク計画に関する業務にかかわり、その後も九州内の各事務所において高規格幹線道路や地域高規格道路の調査設計業務を主に携わってきました。

10年ぶり2度目の熊本勤務となりますが、以前、調査設計業務で関わった道路が、現地で姿を現しているのを見ると感慨深いものがあります。まさしく、これが「土木」の醍醐味なのでしょうね。

○二次災害の危険が伴う緊急復旧工事（土留盛土）において、安全確保のため、無人化施工により工事を実施。  
○大容量データ伝達が可能なネットワークを構築し、1km以上離れた操作室より、同時に14台の重機を操作。



▲緊急復旧工事（無人化施工による土留盛土設置等）

な技術支援を頂いています。このように事務所と研究機関が同庁舎内で一体となって早期の復旧・復興を目指す取り組みは、おそらく全国初のことと思います。

所管事業の特徴ですが、道路事業においては道路構造物の補修、復旧に際してのモニタリング技術や将来的な地震発生に備えた機能回復性を高める工夫等が活用・適用されていること、また、砂防事業においては工事の初期段階で高度な無人化施工技術が活用されていることなどがあげられると思います。

## Q 当事務所の紹介(事業内容、組織、特徴)

当事務所の所管は、砂防事業として阿蘇大橋地区大規模崩落斜面の斜面对策、道路事業として国道57号現道部、国道325号(阿蘇大橋架替)、県道熊本高森線(俵山トンネルルート)および村道柘の木～立野線(長陽大橋ルート)の復旧事業です。国道57号現道部以外の道路事業についてはすべて権限代行事業です。それらに加え、平成30年度からは土砂災害から住民の生命、財産、および重要な幹線などの社会基盤の保全を図るため、阿蘇地域(阿蘇カルデラ内)において、阿蘇山直轄砂防事業に着手しています。

当事務所は平成29年4月1日に設置された組織ですが、同日付で国土技術政策総合研究所「熊本地震復旧対策研究室」が設置されており、現地において高度

## ●今後の予定

- ・阿蘇大橋の架け替えについては、54ブロックにのぼる上部工のワーゲン架設を進め、9月14日に中央径間の閉合(剛結)を完了しました。既に側径間部分の桁架設は完了しており、渡河部橋梁のPCケーブルの設置・緊張、橋面工事や舗装工などを実施



▲新阿蘇大橋中央閉合のコンクリート打ち込み作業に参加した、村内5小学校の代表児童。「一生の思い出」「人の手で橋が作られることに感動」と印象に残ったことを話した。

## ▼2021年3月頃の開通を目指し工事が進む新阿蘇大橋(仮称)



架け替える阿蘇大橋は、推定活断層を跨ぐことを想定しているため、将来的な断層変位によるズレに対する配慮が必要となります。落橋等の致命的な機能不全に陥らないよう、さらには復旧性にも考慮し、様々な構造的工夫が施されています。

### 構造的工夫の例



し来年3月頃の開通を目指します。

- ・村道栃の木立野線(長陽大橋ルート)についても、本復旧に向け、道路下の斜面安定化工事などを推進していきます。新しい阿蘇大橋の供用後は、一旦、現在の村道栃の木～立野線(長陽大橋ルート)を通行止めし、仮橋運用している戸下大橋 P4～P6 部の本復旧工事を行う予定です。
- ・阿蘇山直轄砂防事業については、10月現在、8箇所で砂防堰堤新設工事を促進中です。

## Q 地域との連携・協働について

現在、県では「熊本地震震災ミュージアム基本計画」を、また南阿蘇村では「南阿蘇村復興むらづくり計画」を策定し、被災地域の創造的復興に向けた各種施策を推進されています。熊本地震の象徴的な被災現場のひとつである南阿蘇村立野・黒川地域についても、震災遺構等を活かした新たな観光資源創出の取り組みが始まっており、視点場の整備などについて当事務所としても積極的に関わり、支援してまいります。

## Q 地域建設業への要望・メッセージ

熊本地震災直後、余震が続くなかを「地域の守り手」として啓開や応急復旧に尽力された地域建設業界の方々には本当に頭が下がる思いです。また、本復旧でも阿蘇ならではの厳しい現場条件（切り立った地形、泥濘化または風化しやすい地質、多雨地域、霧の頻発など）のなかで、安全を確保しながら工程に支障なく工事を進めて頂いていることに感謝しています。

令和2年7月豪雨においてもそうでしたが、地球温暖化に伴う気候変動により水害や土砂災害等の激甚化、広域化が懸念される中、ますます「地域の守り手」としての役割が重要となっています。

今後も引き続きその役割を果たしていけるよう、地域建設業界の方々のお話を伺いながら、出来る限りお応えできるよう努めて参りたいと思っています。

## Q 趣味や健康法について

趣味は釣りとドライブです。実家が海に近いこともあり、幼いころから釣りには親しんでいました。機会が減りましたが、家族全員で自然景観の良いところに出かけていたのを思い出します。最近では、TV や YouTube でキャンプ動画を楽しんでいます。とくに、キャンプ用品やアメニティーが準備されているグランピング施設には興味があり、情報収集も兼ねて観ています。



▲国道57号開通状況



▲斜面崩壊を後世に伝える石碑「数鹿流崩之碑」

### プロフィール



出身地：大分県佐伯市  
 生年月日：昭和40年10月30日（54歳）  
 S61年4月 建設省入省  
 （九州地方整備局  
 福岡国道工事事務所）  
 H19年4月 九州地方整備局  
 熊本河川国道事務所 調査第二課  
 H22年4月 九州地方整備局 北九州国道事務所 調査課長  
 H25年4月 九州地方整備局 道路部 道路管理課 課長補佐  
 H27年4月 九州地方整備局 大分河川国道事務所 技術副所長  
 H29年4月 国土交通省道路局 環境安全課  
 道路交通安全対策室 課長補佐  
 H31年4月 九州地方整備局 熊本復興事務所長（現職）



▲被災直後の南阿蘇地区

▼着実に整備が進む南阿蘇地区（令和2年10月撮影）

